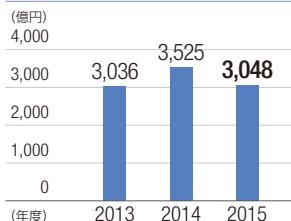


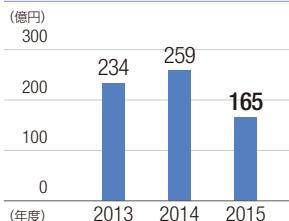
2015年度セグメント別概況(連結)

情報通信システム

売上高



営業利益

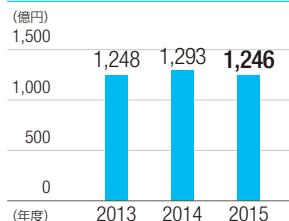


売上高は、3,048億円(前期比477億円、13.5%減少)となりました。ソリューション&サービスでは、法人向けに新規案件の獲得などが進み、概ね順調に推移したことから増収となりました。通信システムでは、通信キャリアの既存ネットワーク関連投資が終息し、当該案件の売上が当第1四半期で終了した影響などにより減収となりました。社会システムでは、航空管制システムや市町村向け防災システムなどの引き合いが堅調に推移した一方、消防無線のデジタル化需要が前期でピークアウトとなったことから減収となりました。メカトロシステムでは、国内では現金処理機が好調だったものの、海外向けATMは中国販売パートナー向けの出荷停止が継続し、ブラジルにおいても現地経済が減速している影響を受けて顧客の投資抑制が続いた結果、減収となりました。

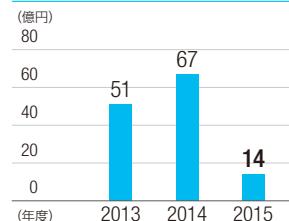
営業利益は、固定費などの削減を行ったものの物量減の影響が大きく、165億円(同94億円減少)となりました。

プリンター

売上高



営業利益

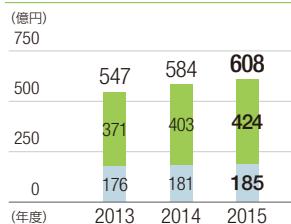


売上高は、1,246億円(前期比47億円、3.6%減少)となりました。LEDプリンターでは、最も注力してきたカラーMFPなどの高付加価値の戦略商品については、販売サポート体制を強化した効果もあり概ね堅調に推移しました。一方で既存商品については、オフィス向けのカラーSFPを中心に市場全体が縮小傾向にあること、さらに市場での価格競争激化に対し、相対的に価格水準を維持したことも影響したため、販売台数が減少しました。しかし、第2四半期の半ば以降には、価格対応の見直しを選択的に行ったこともあり、販売台数の減少には歯止めがかかりました。また、2015年10月1日にセイコーインスツル株式会社から大判プリンター事業を取得しました。

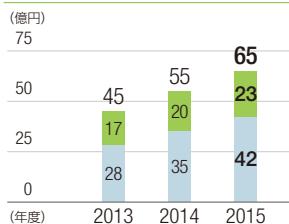
営業利益は、物量減や為替の影響により14億円(同53億円減少)となりました。

EMS、その他

売上高



営業利益



EMS事業では、2015年4月1日付で横河電機株式会社より取得した横河マニファクチャリング株式会社青梅事業所の取得効果もあり、特に回路基板事業が順調だったことなどから、売上高は424億円(前期比21億円、5.1%増加)となりました。営業利益は23億円(同3億円増加)となりました。

その他の事業では、リードスイッチなど部品関連の好調が継続し、売上高は185億円(同4億円、2.2%増加)、営業利益は42億円(同7億円増加)となりました。